

(概要)第七次 未来医師会ビジョン委員会答申

「2050年の日本～未来の医療のあるべき姿、未来の医師のあるべき姿、未来の医師会のあるべき姿～」

第1章 2050年の日本

- 人口減少・超高齢化が一層進行し、外国人比率が高まる多文化共生社会へ。
- 労働力不足を背景に、外国人人材の活用やデジタル化が加速。
- 経済面・能力面での格差が固定化。
- 行政の財政難が顕著となる。

第2章 2050年の医療

- 国民皆保険の持続可能性の確保と、自由診療や医療インバウンドなどによる過度な利益追求から医療倫理を守る体制強化が急務。
- 平時有事問わず、AIを活用したトリアージ・遠隔医療が行われるほか、自動運転車両や医療用ドローンのさらなる普及により、医療従事者不足を補完するようになる。

第3章 2050年の医師

- AIやDX化により、診断・治療の精度、効率性が飛躍的に向上する一方で、AIによる診断等は不確実性が伴う。
- 医師は心のコンダクターとして、患者に寄り添い、患者の死生観等にあった治療方針を決定する。
- 機能的定年制・成果連動型報酬の導入検討。

第4章 2050年の医師会

- 医療資源の最適配分とAIの倫理的監視を行う役割を担う。
- 有事には、行政と連携する指揮系統のトップとしての機能を担う。
- 若手医師の組織帰属性向上のため、民間医局化を推進する。